



▲当日は鴨川沖の水深90~100メートルを狙った



●船中全員タチウオを釣り上げる流しもあり魚影の濃さを実感



▼タナは底から20メートルの範囲が中心



▲当日のアベレージは90センチ前後
▼取り込みは魚を船ペリに当てないように抜き上げよう



▼タチウオ初挑戦で20本以上にした

▼信照丸はテンピン、テンヤ、ジギングの同船OK。当日は全員テンピン仕掛けてオモリ80号を使用。エサはサンマの切り身が支給される



★外房のタチウオは10月も大いに期待できそう



▲力強い引きも魅力

外房勝浦松部港出船 アタリ活発、食い込みよし! 外房エリアのタチウオ急上昇

撮影◎鈴木良和



▲指幅5本の良型も
▶110~120センチ級が数本上がった

テンヤブームも手伝って人気沸騰中のタチウオ。主な釣り場は、ほぼ周年出船する東京湾と沼津エリアながら、例年秋口から初冬にかけて乗合船が出船する外房エリアも見逃せない。

9月初旬からタチウオ船をスタートさせた勝浦松部港・信照丸での取材日は、鴨川沖の水深100メートル前後を中心に狙い、70~120センチ級がトップ40本の好模様。魚がスレていないのか食い込みがよく初挑戦の人もタチウオの引きを満喫、大半の人が25本以上を手にした。

目下、同船の釣り物はタチウオとマハタの2魚種。出船予定日を確認の上、出かけていただきたい。
(詳細は52ページ参照)



●外房勝浦松部港・信照丸
吉野 勉船長